

学校法人 滋慶学園 TCA東京ECO動物海洋専門学校 学校関係者評価委員会 会議資料

【令和4年6月24日実施】

令和3年度自己点検自己評価(令和3年4月1日～令和4年3月31日)による

大項目	点検・評価項目	自己評価		点検・評価項目総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評価	
		優れている…3 適切…2 改善が必要…1				優れている…3 適切…2 改善が必要…1	学校関係者評価委員よりの御意見
1 教育理念・目的・育人人材像	1-1 理念・目的・育人人材像は定められているか	3		<p>学校法人滋慶学園 東京コミュニケーションアート専門学校は、学校法人滋慶学園グループ(※1)に属し、「職業人教育を通して社会に貢献すること」をミッション(使命)としている。</p> <p>「実学教育」(※2)「人間教育」(※3)「国際教育」(※4)を建学の理念とし、①卒業生を送り出す業界からの信頼 ②入学された学生と保護者からの信頼 ③学生を送り出す高校からの信頼 ④地域の方々からの信頼を得られる学校を目指して運営している。</p> <p>東京コミュニケーションアート専門学校(TCA)は、動物業界が求める人材を動物業界とともに育成する『産学連携教育』を通して2・3年制で、一人ひとりを大切に育成しながら、社会に貢献できるペット・動物・海洋・自然保護に携わる人材の育成でワールドワイドに動物業界に貢献することを目標としている。</p> <p>それには、日本人のみならず留学生も学ぶ学校運営を目指している。そして、多くの企業プロジェクトやインターンシップ、オーストラリア クイーンズランド大学との提携により留学制度の取り組みなど、世界を舞台に活躍できる人材育成を行う学校作りを目指している。</p> <p>また、専門教育だけでなくキャリア教育にも力をいれている。具体的には入学前導入教育を通して勤労観・職業観で「やりたい仕事」「夢の実現」など将来について目標・目的をもてるような『職業人』としてのキャリア形成のサポートをし、在学中は社会人基礎力を身につけプロとしての自立のためのキャリア設計を促し、卒業後もキャリア開発のための支援を続け生涯に渡ってのキャリア教育を行っている。</p>	<p>「学校法人滋慶学園グループ」</p> <p>昭和51年の創立以来、「業界に直結した職業人教育を通じて社会に貢献すること」をミッションに掲げ、全国に専門学校・教育機関を設置し、業界で即戦力となる人材育成のため、常に揺るがない建学時からの価値観の源泉である「3つの建学の理念」と「4つの信頼」を実践している。</p> <p>医療・福祉・美容・調理・製菓・バイオ・スポーツ・クリエイティブ・エコ・音楽・ダンス等、多岐にわたる分野で北海道から福岡・米国まで79校を有する。</p> <p>「実学教育」</p> <p>スペシャリストが求められる時代に即し、業界に直結した専門学校として、即戦力となる知識技術を教授する。一人一人の個性を活かし、それぞれの業界で力が発揮できるように構築された『滋慶学園グループ独自の教育システム』。</p> <p>「人間教育」</p> <p>開校以来、『今日も笑顔で挨拶を』を標語に掲げ、他人への思いやりの気持ちやコミュニケーション能力、リーダーシップがとれる対人スキル等を身につけ、同時にプロ・社会人としての身構え、心構え・気構えを養成する。</p> <p>「国際教育」</p> <p>日本人としてのアイデンティティを明確に持ち、価値観や文化の違いを尊重して、より広い視野でモノを捉える国際的感性を養う。</p>	3	<p>職業人教育として基本的なことはできている。いち早く顧客のためという意識を早い段階で植え付けさせるためにもインターンシップは必要(大江戸商事 小林様)。</p> <p>「笑顔で挨拶」は社会人としても大事であるため引き続き指導をしていただきたい(株式会社 AHB 祖一様)</p> <p>在校生から明るい雰囲気が伝わってきており、小売業に必要な人間ができていると思われる(卒業生 永井様)</p>
	1-2 学校の特色は何か						
	1-3 学校の将来構想を抱いているか						
2 学校運営	2-4 運営方針は定められているか	3		<p>外的変化・内的変化など諸環境の変化や継続的な健全経営、またコンプライアンスを遵守できるよう、滋慶学園グループとしての長期・中期・短期展望で毎年事業計画を作成し、グループ全体に対して方向づけを行う。それに基づき、滋慶COMグループの事業計画が作成され、更に、その方針を踏襲したかたちで、各学校が毎年5カ年事業計画を作成することになっている。この事業計画書こそが本校における運営の核となるものである。</p> <p>事業計画は、法人常務理事会、法人理事会の決議を受け、承認を得ることになっている。そして本校においては、毎年3月に事業計画を全教職員へ周知徹底するための研修を行う。</p> <p>事業計画においては、グループ全体の方針や方向性、組織、各部署における目標や取り組み、職務分掌、各種会議及び研修等について明確に示されている。</p> <p>本校の運営は、事業計画に示された組織目的、運営方針、実行方針と実行計画に基づいたものとなり、業務に取り組むこととなる。事業計画書の組織図には学校に係わる人材が明記され、誰もが全員の組織上の位置づけを理解できるようになっている。単年度の運営も、5カ年計画の視点にたって行われる。</p> <p>本校は、滋慶学園グループの事業計画に沿って、採用と人材育成に力を入れ、様々な研修や会議を通して目的と目標達成に向かう。「人が成長しない組織に発展はない」との考えのもと、スタッフのスキル面とマインド面の向上を図り、すべての人がキーパーソンとして、各種研修や会議、ミーティングなども通して考え方や方針を理解・共有して実行している。</p>	<p>事業計画書は、広報・教務・就職と、学校におけるすべての部署に関連されすべての部署が同じ方針・考え方を共有のもと作成され徹底している。</p> <p>学校全体の運営、あるいは各部署の運営が正しく行われるために、様々な研修や会議が設けられ、この研修、会議を通じて、個人個人の目標設定及び業務への落とし込みを行い、また常に方向性、位置づけ等を確認できるシステムを構築している。</p> <p>「組織目的」「運営方針」「定量的目標」「定性的目標」「実行方針」「実行計画」で事業計画は作成され明文化されている。</p> <p>また「組織図」「5カ年の収支計画」「各部署における年間目標とスケジュール」も示されている。</p> <p>学校運営に関しては、一人ひとりのスタッフが運営の意識を持ち、学生数、経費、授業、イベント運営の年間計画を立て、7つの視点 ①攻めと守り ②グローバルな視野 ③学生ひとり一人を見る ④社会の変化を見る ⑤事業運営力 ⑥スタッフの成長 ⑦理念、ミッションの共感を理解し、運営に努める。</p>	3	<p>スタッフの数が少ないとは思えませんが、その一人一人を就職するまでの面倒を見るとなると難しい点も多いかと思います。ここは講師を引き入れ円滑に回る形づくりがあるとよい(大江戸商事 小林様)。</p> <p>学校運営に関してははっきりしていると思われる。運営方針、事業計画もはっきりしている。入学者増し、退学者減より学校運営は軌道に乗っている感がある。今後はオンラインを活用した新しいスタイル、システム構築が求められる(株式会社AHB 祖一様)。</p>
	2-5 事業計画は定められているか						
	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか						
	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか						
	2-8 意思決定システムは確立されているか						
	2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか						

<p style="text-align: center;">3</p> <p style="text-align: center;">教育活動</p>	<p>3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか</p> <p>3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか</p> <p>3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか</p> <p>3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか</p> <p>3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか</p> <p>3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか</p> <p>3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか</p> <p>3-16-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか</p> <p>3-17 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか</p> <p>3-18 資格取得の指導体制はあるか</p>	<p style="text-align: center;">3</p>	<p>職業人教育を「専門職業教育」と「キャリア教育」に大別しており、双方で共通しているのは、業界との密接な関係、関連である。「業界が求める人材を業界と共に育成する」ことが大テーマであり、それに沿った教育目標・方針を正しく方向づけることが点検ポイントとなる。具体的には独自の「産学連携教育システム」を構築しており、このシステムにより、業界と乖離することなく、業界で即戦力となりうる人材を育成、輩出することを可能としている。</p> <p>入学前から卒業までのカリキュラムについては、体系的に編成されているが、常にバイオスフェア教育部会等で討議、見直し等を行っている。また、それは学科(専攻)専門スキルに関わるもののみならず、職業人・社会的自立を目指した、「キャリア教育」の視点に立ったものになっている。</p> <p>授業内容の改善、教職員・講師の資質向上等を目的とし、授業評価アンケートを実施している。これは講師や学生の状況を正確に把握し、総合的判断をするための大きな材料となっている。 成績評価・単位認定の基準は明確にし、学生指導を行っているが、基準と共に、柔軟な対応ができる余地を残すことで、すべての学生が学科の目標を達成した上で、進級・卒業できる体制を作っている。</p> <p>資格・検定取得については、就職、就業において付加価値となるという範囲で、その取得に向けての支援を行っている。</p>	<p>「業界が求める人材を業界と共に育成する」という「産学連携教育」を教育の核として、一人ひとりの学生を大切にしながら、ペット・動物・海洋・自然保護を通じて社会に貢献できる人材の育成を行い、ワールドワイドに動物業界に貢献することが本校の組織目的である。 その達成のために、基盤と成る教育フローとシステムを構築している。</p> <p>教育フローについては、キャリア形成(入学前)→キャリア設計(在学中)→キャリア開発(卒業後)という、学生ひとり一人の長期にわたるキャリアに関わることを基盤としている。 これは、入学前においては基盤となる就業観・職業観の形成と確立。在学中においては、専門職業に就くプロセスの設計と能力の修得を。卒業後においては職業人・社会への移行と更なるキャリアの開発に関わることである。 その一貫したフローにより、学生たちの常なる目的・目標意識の向上を果たしている。</p> <p>即戦力としての実践的スキル、ビジネスマインド等を身につけることを目的として、次の6つのシステムが挙げられる。</p> <p>①企業プロジェクト ②ダブルメジャー・カリキュラム ③業界研修 ④海外実学研修・海外専門留学(3か月) ⑤業界特別ゼミ ⑥就職サポート</p> <p>また、教育システムのさらなる改善、開発のため、滋慶COMグループの動物系全校から構成する「バイオスフェア教育部会」を設置し、システムの共有化、レベル向上化を図っている。 主な内容は、①教育指導法・技法の開発 ②カリキュラムの検討 ③企業プロジェクトの実施運営方法 ④退学防止対策 ⑤国際教育システム開発 ⑥卒業後支援事業 等である。</p>	<p style="text-align: center;">2</p>	
<p style="text-align: center;">4</p> <p style="text-align: center;">教育成果</p>	<p>4-19 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか</p> <p>4-20 資格取得率の向上が図られているか</p> <p>4-21 退学率の低減が図られているか</p> <p>4-22 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか</p>	<p style="text-align: center;">2</p>	<p>教育成果は目標達成の努力の結果であるが、本校では、専門就職率100%、退学者0名を教育成果の最終目標に学校運営を行っている。</p> <p>就職では、就職率について高い達成率を得ているが、単に就職率だけを考えるのではなく、専門就職率、就職対象率の向上を課題として取り組んでいる。</p> <p>また、動物業界への就職ではなく一般企業への就職を志望する学生も多く在籍しており、こちらについてもそのデビュー率向上を課題として各種取り組みをおこなっている。</p> <p>退学率についても、様々な取り組みの努力を重ねた結果、低い水準を維持できている。今後も学生個々の指導支援を基本として、カリキュラムの工夫、担任・副担任制度の強化、教職員のカウンセリング力向上、授業外支援等、各種においてイノベーション・リノベーションを実施し、退学率0%達成に向け、努力を惜しむことはない。</p>	<p>今年度に関しては、教育も就職も新型コロナウイルスの影響が非常に大きかった。就職実績は教育成果の1つであり、100%を達成すべく、毎年努力を続けている。また、できるだけ多くの学生に夢をかなえて就職するよう、就職対象者率の向上も大きな課題である。 学生が目標を達成できるように、保護者と三位一体となり、支援する体制作りを行っている。 さらに、就職の方向性が多様化している現在、一般職の説明会も年に2回開催している。 退学率では、目的/目標意識が減退してしまった学生に対して、十分なカウンセリングを経て、学内にて転科・転専攻できる体制を作る。また学園全体として進路変更委員会を設置。姉妹校と協同し、転校プログラムをシステム化するなど、これまで以上にその問題に対応できるシステムを整え、1人の退学者も出さない学校になるべく、努力をおこなっている。 今後は、最終目標である0%に向け、さらなる努力を重ねたい。</p> <p>平成31年度の退学率1年⇒2年 7.5% 全体6.9% 令和2年度の退学率1年⇒2年 3.8% 全体2.8%</p>	<p style="text-align: center;">3</p>	<p>DO率が下がっても対面不足による離職率が上がることがないような手法も必要かと思う(大江戸商事 小林様)。</p> <p>就職率、退学率ともに素晴らしい。今後は退学者ゼロは難しいにしても良い学校を目指してもらいたい(日本生態系協会 佐山様)。</p> <p>就職率100%は素晴らしい。退学率も著しく低下している。新設されたレプタイル専攻の石田君の活躍は素晴らしい(東武動物公園 下様)。</p> <p>就職率、退学率ともに素晴らしい(株式会社AHB 祖一様)。</p>
<p style="text-align: center;">5</p> <p style="text-align: center;">学生支援</p>	<p>5-23 就職に関する体制は整備されているか</p> <p>5-24 学生相談に関する体制は整備されているか</p> <p>5-25 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-26 学生の健康管理を担う組織体制はあるか</p> <p>5-27 課外活動に対する支援体制は整備されているか</p> <p>5-28 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか</p> <p>5-29 保護者と適切に連携しているか</p> <p>5-30 卒業生への支援体制はあるか</p>	<p style="text-align: center;">2</p>	<p>本校では、個々学生が目標を達成できるように、物心両面の環境を整備していくことで支援に繋がると考える。しかし、支援はあくまでも支援である。例えば、健康の維持は学業目標達成には欠かせない事項であり、本校でも健康診断にとどまらず、多くの支援体制を築き上げているが、学生本人が健康管理についての自覚を持たない場合、支援は効果がない。それゆえ、学生支援はまず学生の自立的行動を促すことから始めている。</p> <p>学生支援には、①就職 ②学費 ③学生生活 ④健康 などの分野で行っているが、それぞれの分野で対応できる担当部署及び担当者を置いている。 ①就職については、専門部署であるキャリアセンターを設置し、クラス担任との強い連携をとりながら、就職の相談、斡旋、面接他各種指導などの支援をしている。 ②学費については、相談窓口として事務局会計課を置き、提供できる学費面でのサービスをアドバイスするファイナンシャルアドバイザーにより支援をしている。 ③学生生活については、クラス担任制により行うが、それ以外にもSSC(チューデント・サービス・センター)という悩みや相談を受ける専門部署を設置し、専門カウンセラーが支援を担当している。 ④健康については、滋慶学園グループのクリニックである慶生会クリニックが担当し、在学中の健康管理を支援している。</p>	<p>「一人ひとりを大切に」という考えのもと教育しているが、本校でも学生を第一に考え、様々な支援体制を整備している。その中でも、「就職」は学生が目標を達成し、業界で活躍するための最重要事項であり、本校では特に力を入れており、キャリアセンターという専門部署を置き、専任のスタッフを配置している。 キャリアセンターは、業界現場での実践研修である「業界研修」のコーディネーターから、個別相談、就職対策講座、就職支援イベント開催、就職斡旋等々、就職に関するあらゆる支援を行っている。 また、求人情報等を学生が自宅のパソコンでも閲覧できる就職支援システム「サクセスナビ」などのシステムも構築し、迅速な対応ができるように支援している。 このような支援体制の結果、就職率(就職者/就職希望者)だけでなく専門分野への就職率である専門就職率も高い水準を維持している。 「就職」と並ぶ重要項目である、「教育」については、教育環境を整備し、成果を上げている。即戦力の人材を育成するための施設・設備、機材等々を完備し、また業界ニーズとブレのないカリキュラムの構築、業界第一線で活躍する講師陣による授業など、オンリーワンを目指す学校として十二分な体制を確立している。 また精神面で問題を抱えている学生に対してはチューデント・サービスセンターを設置。スクールカウンセラーが常駐しておりカウンセリングを行っている。更にまだ日本語に不慣れな留学生に対しての日本語フォローアップ授業や、学科を超えた学生の交流を促し居場所づくりに役立つようサークル活動支援なども実施している。</p>	<p style="text-align: center;">2</p>	<p>卒業生と会う機会が多いのですが、卒業してからも連絡が取れる環境は素晴らしいと思います。よりいけんが反映されるように個人的にも尽力したい(大江戸商事 小林様)。</p> <p>今後も想定外の事態が起こる可能性がありますのでコロナ禍での経験を生かしてください(日本生態系協会 佐山様)。</p> <p>キャリアセンターが1名から3名に増員したとのこと。木目の細かい対応を期待します(東武動物公園 下様)。</p> <p>オンリーワンを目指すのであれば業界との連携が必要となる(株式会社AHB 祖一様)。</p>

<p>6 教育環境</p>	<p>6-31 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか</p> <p>6-32 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか</p> <p>6-33 防災に対する体制は整備されているか</p>	<p>3</p>	<p>施設・設備、機材等は業界で即戦力となり得る人材を育成するためのものであり、最新・最良のものを完備する考えで運営しており、教育上、十分な対応ができていると考える。 毎年、事業計画をおこない、予算を計上し、計画通りに更新もできている。</p> <p>ハード面としては、新校舎を設立し。後期より新校舎へ完全移動し、新しい環境で授業を行った。 ソフト面としては、本校は即戦力の人材育成を目的としており、そのための教育環境は整備されている。特に業界研修(インターンシップ)においては、企業側と綿密な連携をとり、十二分な学習環境を設定している。また、海外実学研修では、それぞれの専攻等において大きな学習効果の得られる教育機関、企業と連携し、ワークショップ他を行っており、十分な教育環境を整備していると考え。</p> <p>教職員が常に災害を意識しており毎年、教職員、学生の防災訓練を実施し、地震や火災等の際の避難訓練経路を確認するなど、防災体制を確立し、チェックしている。</p>	<p>教育効果を考慮し現状の業界環境と今後の展望をリサーチの上、機材等の購入を実施している。また、PC関連機材についてはメンテナンスが重要であり、学園サポート企業と綿密な連携を計りその対応にあたっている。</p> <p>新校舎へ移転した。デザインは名誉学校長であるKEN OKUYAMA事務所に依頼し、「地域に開かれた動物園・水族館のある校舎」をコンセプトにしている。これに伴う器材等の設備も整え、益々大きな学習効果の得られる教育環境を整備したと考えている。また、新専攻である恐竜専攻の校舎もでき、校舎は一層充実している。</p> <p>業界研修(インターンシップ)の教育効果と成果は非常に高いものがあるが、単なる学習の場としてだけではなく、毎年、この研修から多くの就職内定に結びついている。海外研修は本校の建学理念の1つである「国際教育」実現に大きな役割を果たしている。</p> <p>教職員対象の防火訓練、教職員・学生対象の避難訓練を毎年実施し、災害に備えている。そのため、マニュアルを整備し、教職員の役割分担作成・確認、学生への情報提供など、体制は整備されている。</p>	<p>3</p>	<p>海外の実習がいけない中それに代替となる実習を見つけるチャンスでもあると思います(大江戸商事 小林様)。</p> <p>新校舎を設立し移転したことでこれまでよりもより充実した設備を持つことができたと思われる。インターンシップについては「来るものは拒まず」の考えで弊社でやっているのを利用していただきたい(東武動物公園 下様)。</p> <p>環境はとても良いと思われる(株式会社AHB 祖一様)。</p> <p>新校舎移転にともない飼育環境も新しくなりましたが、以前より飼育スペースが減ったのが残念です(神畑養魚株式会社 妹尾様)。</p>
<p>7 学生の募集と受け入れ</p>	<p>7-34 学生募集活動は、適正に行われているか</p> <p>7-35 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか</p> <p>7-36 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか</p> <p>7-37 学納金は妥当なものとなっているか</p>	<p>3</p>	<p>東京都専修学校各種学校協会に加盟し、同会の定めたルールに基づいた募集方法、募集内容(AO入学を含む)を遵守している。また過大・過剰な広告を一切廃し、必要な場合は根拠数字を記載するなど、適切な学生募集ができるように配慮している。 さらに、広告倫理委員会を設置し、募集活動の適切さをチェックしている。</p> <p>広報・告知に関しては、各種媒体、入学案内パンフレット、体験入学や学校説明会への参加や学校ホームページを活用して、学校告知を実施し、教育内容・就職実績・デビュー実績等を理解いただくように努めている。 すべての広報活動等において収集した個人情報(資料請求者・来校者・出願・新入生)は、校内に個人情報委員会を設置し、厳重に管理し、流出及び他目的に使用しないように、管理の徹底を図っている。また研修などを通じて最新の個人情報保護に関する知見を高める努力をしている。</p> <p>入学選考に関しては、願書受付日及び締切日、選考日を学生募集要項に明示し、設定日に実施している。選考後は、「入学選考会議」により、担当者の所見を基に、合否を決定する。なお、入学選考は、「面接選考」及び「書類選考」であるが、その基準は、「目的意識」である。目指す業界への職業感や具体的な目標を確認すると共に、本校の教育プログラム及びカリキュラムにおいて学校が提供できることを説明している。入学試験という名称のもと、学科試験を行うものではない。</p> <p>学費や諸費用、教本・教材等の見直しを毎年行っており、無駄な支出をチェックしている。 保護者への納入金額の提示についても、入学前の段階において、年間の必要額を学生募集要項に明記し、基本的に期中で追加徴収を行わない。</p>	<p>学生募集については、募集開始時期、募集内容等々ルールを遵守し、また、過大・過剰な広告を一切排除し、公明正大な学生募集に配慮している。</p> <p>広報活動では「産学連携教育やキャリア教育など学校の特色を理解してもらう」ことを強化している。本校は専門職への就職やデビューを達成することを第一目標としているため、入学前に職業イメージが明確になっているかが大切と考え、体験入学や学校説明会への複数回参加を促し、職業や学校について、充分理解し、疑問を解消した上で出願してもらうことを心がけている。</p> <p>教育成果として、専門的な職業への就職実績と卒業生の活躍の打ち出しを強化しており、学生募集上の効果はかなり高いと考えるが、それゆえ、過大な広告にならないよう、事務局長、広報責任者等が常にチェックしている。</p>	<p>3</p>	<p>この少子化の中で人数を変わず集められることに当社も学ぶべきことが多い(大江戸商事 小林様)。</p> <p>学生募集にはルールを遵守しているとのこと。引き続きお願いします(東武動物公園 下様)。</p> <p>学校の特色を明確に打ち出す必要がある(株式会社AHB 祖一様)。</p>
<p>8 財務</p>	<p>8-38 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか</p> <p>8-39 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか</p> <p>8-40 財務について会計監査が適正に行われているか</p> <p>8-41 財務情報公開の体制整備はできているか</p>	<p>3</p>	<p>学校の維持・発展には、安定的な財務基盤の確立が重要である。 毎年、次年度の事業計画を作成し、5か年の収支予算を立てている。次年度の収支予算(短期)はもちろんのこと、中長期的に予算を立てることにより、確固たる学校財務基盤の構築に向けた計画が可能になる。</p> <p>5か年予算は将来の広報数字(入学生数)教務数字(ドロップアウト数)就職計画、学科学費計画等を鑑み収支計画を作成する。作成にあたっては学校、評議員会、理事会と複数のチェックが必要になり、現実的な予算編成となる。次年度の予算については特に綿密な予測を立て、実現可能な予算になるようにしている。年度途中での修正が必要となれば、修正予算を組み、確実な予算の執行を行なう。 学校の財務体制を管理し、健全な学校運営ができるように、予算・収支計画は有効かつ妥当な手段として利用されている。</p> <p>平成17年4月に私立学校法が改正され、学校法人の財務情報の公開(利害関係者への閲覧)が義務づけられた。本校でもこの法律改正に迅速に取り組み、外部関係では寄付行為の変更認可及び行政への届出、そして内部関係では、財務情報公開規定及び情報公開マニュアルを作成し、財務情報公開体制を整備した。</p>	<p>予算を短期(1年)・中長期(2年～5年)に分け、2つの観点から予算編成を行っており、事業計画には両方を盛り込み作成する。短期的な予算編成は当年度の実績を基に次年度業務計画を加味して行なわれる。中長期的な予算編成は大規模な計画(新学科申請、学納金額変更、増改築等の設備支出など)を視野に入れたうえで、社会・経済・業界の情勢を読み行なわれる。 作成した予算に現実の予算との差異が生じた場合、短期の予算については年度内に修正予算を組み、中長期の予算においては毎年編成しなおすことにしている。四半期ごとに予算実績対比を出し、学校責任者と学園本部が協議し予算と実績が乖離しているようであれば、修正予算案を編成し、評議員会・理事会の承認を得る。 事業計画・予算は学校責任者が協議して作成し、学園本部がチェック・修正を行い最終的に評議員会・理事会が承認する体制を整えている。</p> <p>平成17年4月の私立学校法の改正に伴い、「財務情報の公開」が義務づけられたことに応じ、「財務情報公開規定」を作成し、財務情報の公開にあたって私立学校法第47条に基づき、必要な項目を定め、具体的な事項については「情報公開マニュアル」を作成し、対応にあたっている。 「財務情報公開規定」では目的、管理、公開、対象書類、閲覧場所、時間、閲覧申請方法等を規定しており、情報公開に必要な事項を定めている。 「情報公開マニュアル」では実際の情報公開の場面においての手順等を閲覧の対象者、閲覧の方法、閲覧申込様式とその記載方法、事例及び対処方法と具体的に定めている。</p>	<p>3</p>	<p>財務に関して健全なことがわかり安心した(東武動物公園 下様)。</p> <p>利率率が10%強と非常に優秀である(株式会社AHB 祖一様)。</p>

9 法令等の遵守	9-42 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	3	法令を遵守するという考えは、滋慶学園グループ全体の方針として掲げ、各校の教職員全員でその方針を理解し、実行に努めている。 法人理事会のもと、コンプライアンス委員会で学校運営が適切かどうかを判断している。 現状では、学校運営(学科運営)が適切かどうかは次ぎの各調査等においてチェックできるようにしている。 ①学校法人調査 ②自己点検・自己評価 ③学校基礎調査 ④専修学校各種学校調査 等 である。 また、組織体制強化やシステム構築にも努め、次のようなものがある。 (A)組織体制 ①財務情報公開体制(学校法人) ②個人情報管理体制(滋慶学園グループ) ③広告倫理委員会(滋慶学園グループ) ④進路変更委員会(滋慶学園グループ) (B)システム(管理システム) ①個人情報管理システム(滋慶学園グループ) ②建物安全管理システム(滋慶学園グループ) ③防災管理システム(滋慶学園グループ) ④部品購入棚卸システム(滋慶学園グループ) ⑤コンピュータ管理システム(COM グループ) ⑥勤怠管理システム(滋慶学園グループ)	3つの建学の理念「実学教育」「人間教育」「国際教育」で「職業人教育を通じて社会に貢献する」というミッションを掲げ、4つの信頼(「業界の信頼」「高校の先生の信頼」「学生・保護者の信頼」「地域の信頼」)を確保するためにもコンプライアンス推進をはかる。 具体的には、すべての法令を遵守するとともに、社会規範を尊重し、高い倫理観に基づき、社会人としての良識に従い、行動することが私たちの重要な社会的使命と認識し、実践する。 方針実行のため、学内にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスを確実に実践・推進に当たらせることにした。 委員長は、統括責任者としての学校の役員が就任する。委員は学校の現場責任者である事務局長と実務責任者の教務部長で構成される。 主な任務は、行動規範・コンプライアンス規程の作成、コンプライアンスに関する教育・研修の実施、コンプライアンス抵触事案への対応及び再発防止対策の検討・実施、コンプライアンスの周知徹底のためのPR、啓蒙文書等の作成・配布である。 監事による毎年の監査に際して、業務監査の対象として、コンプライアンスの実施状況についても監査してもらっている。 今後は、コンプライアンス相談窓口の設置が必須であると考えている。	2	衛生環境安全委員会による 職員祖ストレスチェックや労働時間の確認と労働内容の見直しを組織的に行い、個人的には主体的に取り組むようにしている。	課題の解決に向けて努力して下さい(日本生態系協会 佐山様)。 コンプライアンス委員の設置は良いことである。今後コンプライアンス相談窓口の設置も是非とも実現していただきたい(東武動物公園 下様)。 問題ないと思われる。今後は教育課程にもコンプライアンスを導入いただきどの企業にも耐えうる認識を身につけさせる必要がある(株式会社AHB 祖一様)。
	9-43 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか						
	9-44 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか						
	9-45 自己点検・自己評価結果を公開しているか						
	9-46 「働き方改革」を進めているか						
10 社会貢献	10-47 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	3	本学園グループの考え方である「4つの信頼」の一つ、「地域からの信頼」を達成するために、本校の所在地である江戸川区とのプロジェクトを中心に社会貢献を実施。その中には毎年恒例の行事として地域からも認知され、多くの方々に楽しんでいただいているものもある。 またこれらの社会貢献は、単に行事を実施するだけでなく、建学の理念の一つである「人間教育」を行うためにも重要と考えており、今後の本校の教育的課題の一つでもある「キャリア教育の推進」とも連動し、社会貢献を念頭に置いた教育カリキュラムの体系化にも大きくつながってくると考える。	ペット・動物・海洋・自然保護に携わる人材を育成する学校である本校の特色を活かし、ふれあい動物園を通じた地域との交流を図ることに成功している。 例えば四季の道西葛西新田地域ふれあいフェスティバルでは、本校の学生たちがふれあい動物園などを開催し、地域の方々と積極的なコミュニケーションを図る機会を得られた。 また、江戸川区主催の金魚祭りなども例年担当し、地域貢献および社会貢献として関わっている。今後行船公園内の江戸川区自然動物園との協力を行う予定。 月に行われる学園祭では、近隣住民に向けても学校を開放し、2日間で3000名を超える来場者を受け入れている。 近隣保育園などへの移動動物園なども企画されている。学生たちは社会貢献を通じて、自分たちが学んでいるものが社会にどう影響を与えられるのかを学んでいる。	2	コロナ禍でどう関わりを持つか、オンラインで可能なボランティアのご提案をしていきたい(大江戸商事 小林様)。 社会貢献のみで考えるのではなく、授業そのものもしくは授業の延長に社会貢献があるようなものが望ましいと思います(日本生態系協会 佐山様)。 コロナ禍でもできる社会貢献を模索して頂ければと思います(神畑養魚株式会社 妹尾様)。 新校舎がもたらす社会貢献は今後も進めて頂きたいと思います(東武動物公園 下様)。	
10-48 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか							